

すべての 被爆体験者の救済を



長崎県保険医協会が取り組んでいる「全ての被爆体験者に速やかに被爆者健康手帳を交付してください」の要請署名は全国から2万191筆が集まり、長崎県、長崎市、岸田文雄総理大臣・後藤茂之厚生労働大臣宛てに提出されました。ご協力いただきありがとうございます。

オンラインの署名は引き続き実施中ですので、まだ署名されていない方はぜひお願いいたします。



オンライン署名はこちら

東京反核医師の会ニュース vol.118

すべての 被爆体験者の救済を



東京反核医師の会ニュース Vol.118 目次

- ピースドクター 「核兵器、戦争をなくすために少しでも貢献したい」 2
はしもと歯科クリニック（東村山市）
橋本 健一
- 原水禁2021年世界大会「核兵器禁止条約発効は大きな一歩」 3
- <参加報告> 第15回被爆者の声をうけつぐ映画祭2021 5
- 第31回反核医師のつどい in 千葉のご案内 7

2021年会費納入・寄付金のお願い

本号には2021年会費の郵便振替用紙を同封しております。

恐れ入りますが、11月30日までに今年度2021年分の年会費5,000円をご納入ください。また、2020年以前の会費が未入の方は、併せてお早めにご送金ください。カンパ・寄付金も随時募集しております。皆様のご協力をお願いいたします。

※振替用紙の「お名前」欄に会員氏名をご記入いただきますようお願いいたします

東京反核医師の会ニュース 第118号

発行日 2021年10月21日

発行人 東京反核医師の会

(核兵器廃絶・核戦争防止東京医師・歯科医師・医学者の会)

連絡先 〒160-0023

新宿区西新宿3-2-7 KDX新宿ビル4F (東京保険医協会気付)

TEL 03-5339-3601 FAX 03-5339-3449

★公式ホームページ★ <http://hankaku.tokyo/>

©Tokyo Physicians for Elimination of Nuclear Weapons (1988-2021)

※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

核兵器、戦争をなくすために 少しでも貢献したい

はしもと歯科クリニック（東村山市）

橋本 健一



□子ども時代に見た

原爆被害の写真の衝撃

昭和40年代の小学生だった夏休みで、広島に原爆が投下された8月6日ごろのことだったと思います。アサヒグラフ（朝日新聞社）だったか毎日グラフ（毎日新聞社）だったか太陽（平凡社）だったか覚えていませんが、何かしらのグラフ誌で広島長崎の原爆被害の写真を初めて見ました。

そこに写っていたものは、背中一面が焼けただれて腹ばいに寝ている少年、仰向けに真っ黒こげに炭化した遺体、川面に浮かぶ無数の遺体その他とてもむごたらしい光景ばかりでした。今日までの60年以上の人生で、それ以上の衝撃を受けたことのない経験でした。

高校の修学旅行では広島平和記念資料館を訪れました。熱線で全身の皮膚を焼けただれさせながら炎の中をさまよう被爆者の等身大の被爆再現人形や黒焦げの弁当箱など被爆死した動員学徒たちの遺品を見た時も、小学生のころと比べてある程度の予備

知識があったとはいえ、やはりその衝撃はすさまじいものでした。

□戦争の矢面に立つのは一般市民

戦争自体が人間の尊厳を踏みにじる行為であり、ましてや核兵器の使用がもたらす被害の実態を知れば、核兵器禁止条約の項目である核兵器の開発（development）、実験（testing）、製造（production）、備蓄（stockpiling）、移譲（transfer）、使用（use）、威嚇としての使用（threat of use）禁止は至極当然のことです。

いつの時代どこの国でも戦争を始めるのは大統領や首相等の国のリーダー政治家やいわゆる高級官僚たちで、戦争被害をうける可能性の一番遠い安全なところから命令を下し、決して最前線にはいきません。一般市民だけが戦争被害の矢面に立たされています。

核兵器をそして戦争をなくすことに少しでも貢献したいと思い反核医師の会へ参加しています。

核兵器禁止条約発効は大きな一歩



長崎デー集会の様子。田上富久長崎市長は「核兵器禁止条約を世界共通のルールとするためには市民社会の粘り強い活動が必要」と述べた（8月9日、東京保険医協会セミナールームから Zoom 参加）

2021年8月2日から9日にかけて、原水爆禁止2021年世界大会が開催され、約9千人が参加した。東京反核医師の会はZOOMで参加した。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、昨年に引き続いてのオンライン開催となった。

1) 国民世論の力で日本の

核兵器禁止条約への参加を

2021年1月22日に核兵器禁止条約が発効を迎えたことについて、核兵器の廃絶に向けた大きな一歩であり、被爆者をはじめとした世界的な市民運動の成果だとの認識が示された。しかし、核兵器保有国および核の傘のもとにある国々は反対の立場を取り、日本も唯一の戦争被爆国でありなが

ら、条約に背を向けている。

日本原水協事務局長の土田弥生氏は、世論調査では日本国民の72%が、政府が核兵器禁止条約に参加すべきと答えていることを紹介し、「国民世論の力で、政党・国会議員に働きかけ、政府の対米追随・抑止力依存の姿勢を転換させる必要がある」と述べた。

2) コロナ禍・飢餓・格差・気候変動…

核兵器維持は膨大な「お金の無駄遣い」

新型コロナウイルス感染症の世界的流行や気候問題、国際的な格差と貧困等の問題を踏まえた発言も多く見られた。

国際平和ビューロー共同会長のフィリップ・ジェニングズ氏は「私たちの準備が足りなかったことだけではなく、持続可能な

平和から遠ざかりつつある世界において、優先順位が間違っていることが示された」と述べたほか、核軍縮キャンペーン議長のダイブ・ウェブ氏は、「ICANの推算で核兵器保有国が2020年に合計726億ドルを核兵器に費やしており、飢餓や格差の是正、気候変動対策に必要なお金が無駄に使われている」と批判した。

3) 市民運動の報告も

微力でも政治を変える力につながる

その他、過熱する中国と米国の摩擦、

NATOの核共有政策問題、東北アジアの非核化等、様々な方面からの発言があった。世界各国での草の根の市民運動についての報告も行われた。東京高校生平和ゼミナールの田原ちひろ氏は、核兵器禁止条約への参加を求める高校生署名の取り組みを行い、外務省へ要請を行ったことを紹介、「微力でも政治を変える力につながることに、自信を感じた。18歳で選挙権を得るにあたり、社会問題にかかわることは、主権者としての自覚を深めることにつながる」と述べた。

参加記

日本の核兵器禁止条約参加が求められている

原水爆禁止2021年世界大会が8月2日から「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を一人類と地球の未来のために」というテーマでオンライン開催された。

8月9日ナガサキデー集會に東京保険医協会セミナールームで参加した。

メルバ・プリーア駐日メキシコ大使は、「来年1月にウィーンで開催される核兵器禁止条約第1回締結国会議に積極的に参加するが被爆者の訴えや証言、知恵が求められています」と発言した。田上富久長崎市長は「被爆者は思い出すのもつらい体験を伝え、核兵器の廃絶を訴え続けてきました」と来賓挨拶をした。東京の高校生、田原ちひろさんは原宿で署名を集めている活動を報告した。

田上長崎市長は平和宣言で「核兵器による惨禍を最もよく知るわが国だからこそ、第1回締約国会議にオブザーバーとして参加し、核兵器禁止条約を育てるための道を探ってください」と訴えている。日本が核兵器禁止条約に参加することが求められていると痛感する大会となった。



代表世話人
矢野 正明

<参加報告>

●●● 第15回被爆者の声をうけつぐ映画祭2021 ●●●

「被爆者の声をうけつぐ映画祭」が、9月18～20日にかけて、武蔵大学にて、被爆者の声をうけつぐ映画祭実行委員会・武蔵大学社会学部メディア社会学科永田浩三ゼミの主催で開催されました。

「映画祭」は原爆や核実験、原発による被害と闘う人々を描いた映像作品を鑑賞し、交流を深める企画で、2007年から今年で15回目となります。

東京反核医師の会からは、事務局3人が8つあるプログラムの中から3つを選んで参加しました。以下、その模様を報告します。

プログラム②「福島の息子」

福島の農家の長男、大内秀一氏の、福島第一原発事故後の日々を映したドキュメンタリーです。事故後の仮設住宅での母親との暮らしや、除染作業の様子、介護施設で暮らす父を見舞う様子などが淡々と映し出されます。

途中で両親のたどった人生について振り返る場面もあり、親と子の絆、土地を守り継承していくという、ある種普遍的な営みを映した映画でもあります。

だからこそ、その営みの間に挿入される「原爆投下」(大内秀一氏のお父様の大内佐一氏は原爆投下直後の広島へ救護に向かった経験の持ち主です)や「原発事故」が、異物として強烈に浮き上がってきて、事故によって奪われたもの、断ち切られたもの

プログラム③「夏少女」

「夏少女」は今回の映画祭の中では数少ない劇映画です。主人公(母親)が被爆二世、その夫が被爆当事者、子供が被爆三世



撮影当時のことや、福島の今について語る大内秀一氏(9月18日、武蔵大学)

の大きさを感じさせられました。

上映後は福島から駆けつけてくださった大内秀一氏が登壇し、裏話なども含めて語っていただきました。自然農法に取り組んでいらっしゃるようで、今はお父様の縁もあって、広島 of 大学生と「福島と広島をつなぐ会」を立ち上げているとのこと。

大内氏の魅力的な人柄を知ること、映画をただ見るだけでなく、血肉の通った経験になったと思います。(事務局・江島)



という設定で、劇中母親が子どもに「被爆遺伝が怖くて1人目の子どもは堕ろしてしまったが、悩みに悩んであなたを産んだ」と語りかける場面があり、その辺りの描写は胸に迫るものがありました。作劇として

は謎が多く鑑賞中首をひねる場面もありましたが、上映後のトークショーで編集の鍋島さんのお話を聞き得心。脚本の早坂さんが子供の頃、実家の店前に捨てられた女の子がいて、妹として育てられますが、後にお互いに想うようになり、彼女は呉の訓練学校にいた早坂さんのもとへ向かう途中で

原爆投下に遭い亡くなってしまったのだそうです。その体験から、早坂さんは幼くして亡くなった少女をテーマに脚本を書くことが多くなったのだとか。原爆は、様々な形で人の身体にも心にも大きな傷を残しているのですね。（事務局・大竹）



プログラム⑦『ヒロシマ ナガサキ 最後の二重被爆者』

「二重被爆者」を追う稲塚秀孝監督の三作目。広島と長崎で被爆した山口彊氏（2010年93歳で死去）と山口氏の遺志を受け継いだ娘、孫、ひ孫の3代に渡る継承を軸に、14歳の時に広島で被爆し故郷長崎で二度被爆をした福井絹代氏（88歳）他、長崎に住む数名の二重被爆者を追った。

山口氏は90歳を過ぎてニューヨークで反核を訴え、死の10日前にジェームズ・キャメロン映画監督と対面した。

なぜ広島と長崎に原爆が投下されたのか

という問いかけで終わる。上映後のトークで稲塚監督は、二重被爆者を追跡すると当時広島、長崎とも三菱重工造船所があり、二重被爆者は三菱重工関係者が多い。日本の軍事産業の拠点であったことから、広島、長崎が選ばれたのではないかと話していた。二重被爆者も高齢化により、生存者が少なくなっている。コロナの影響を受けて、県をまたいでの取材を受けると、介護保険のサービスを2週間受けられなくなることから、取材ができない状況が続いている。今後も二重被爆者に焦点を当てて、ドキュメンタリーを制作したいと意欲を語った。（事務局・中村）

反核医師のつどい in 千葉 募金のお願い

今回の「反核医師のつどい」はZoomによるオンライン開催となり、参加費は無料となりましたが、一定の経費がかかります。皆様からの募金のご協力をお願いいたします。ご協力いただける方は、右記の各種金融機関にてお振込みください。

■りそな銀行

新都心営業部 普通 1557502 「反核医師・医学者の集い」

■ゆうちょ銀行（他銀行からの振り込みの場合）

〇一九支店 当座預金 0056764 「反核医師・医学者の集い」

■郵便振替

00170-7-56764 「反核医師・医学者の集い」

第31回

反核医師のつどい in 千葉

核兵器禁止条約で房総の地から核兵器の暴走を止めよう！

【日程】 2021年10月30日（土）～31日（日）
オンライン開催（Zoom）

【参加費】 無料 ※募金のご協力をお願いしています（詳細は7ページ）

◆◇◆10/30（土）◆◇◆

●17：00～全体会

ビデオメッセージ：ベアトリス・フィン氏（核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）事務局長）

●17：15～シンポジウム

『核兵器禁止条約発効後、核兵器廃絶に向けて求められるもの』

① 児玉 三智子 氏（千葉県原爆被爆者友愛会会長）

『被爆の実相、被爆者の願い』

② 富田 宏治 氏（関西学院大学教授・日本政治思想史）

『TPNW 発効後、核兵器の廃絶に向けて求められるもの』

③ 前川 史郎 氏（原水爆禁止日本協議会担当常任理事）

『原水爆禁止世界大会の意義と運動の方向性、若者へのメッセージ』

●19：45～「Don't Bank on the Bomb」の活動報告

●20：00 終了

◆◇◆10/31（日）◆◇◆

●9：00～原発問題を考える

① 青山 道夫 氏（筑波大学アイソトープ環境動態研究センター客員教授）

『東電福島原発事故による海洋の放射能汚染』

② 木村 俊雄 氏（東電元職員）

『あの日、福島第1原発でおきたこと』

③ 伊東 達也 氏（原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員・いわき市民訴訟原告団長）

『今、福島から・分断と対立を乗り越えて』

●11：50 まとめの全体会

●12：00 終了

【申込み】 参加をご希望の方は、下記の URL または QR コードへアクセスしていただき、必要事項をご記入の上、お申し込みください。つどいの2日前までに、zoom の招待メールと資料等が送信されます。

<https://bit.ly/3chDjDY>

※申込み切：10月25日（月）

【主催】 反核医師の会／「第31回反核医師・医学者のつどい in 千葉」実行委員会

【問合せ】 反核医師の会事務局／小林、都築、上澤 ☎03(3375)5123